

令和 7 年度 石狩浜海浜植物保護センター活動報告書



石狩市環境市民部
石狩浜海浜植物保護センター

目次

内容

第1章. 事業概要.....	1
第2章. 事業方針及び位置づけ.....	2
第3章. 令和7年度事業計画.....	3
I. 自然情報発信・体験学習事業.....	3
II. データに基づく保全対策の実施.....	5
III. 自然資源の適正管理と適正利用.....	7
第4章. 活動報告.....	8
I. 自然情報発信・体験学習事業.....	8
II. データに基づく保全対策の実施.....	25
III. 自然資源の適正管理と適正利用.....	35
第5章. 利用状況.....	37
第6章. 調査報告一覧.....	39
第7章. 海浜植物等保護地区.....	41
資料.....	42
1. 石狩浜アクションプラン(行動計画).....	42
2. 第13回はまなすフェスティバルアンケート.....	44
3. 石狩さけまつり 2025 アンケート.....	46
沿革.....	48

第1章. 事業概要

石狩浜海浜植物保護センター(以下、「保護センター」)は、平成12年にオープンし、石狩市環境基本条例及び石狩市海浜植物等保護条例、石狩浜海浜植物保護センター条例に基づき、石狩浜に生育する海浜植物を基盤とする海浜生態系の生物多様性の保全と、普及啓発に取り組んでいます。

運営については、市直営をベースとし、観察園やハマナス再生園の管理手法の蓄積や、保全対策のためのデータ収集、普及啓発に関わる業務を一部委託する体制で運営しています。

事業については、いしかり生き物かけはし戦略(石狩市生物多様性地域戦略)、「石狩浜アクションプラン」(P42)に基づきながら進めています。

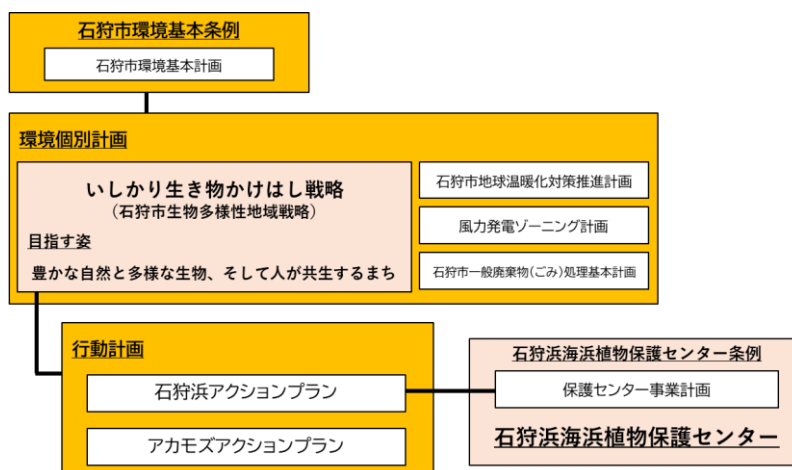


図1. 保護センター事業の位置づけ

今年度は、夏休みに合わせて海浜植物の普及啓発を目的とした『石狩浜の自然であそぼうクラフト・実つき体験 WEEKー』を開催しました。クラフト体験をはじめ、ハマナスの実つき体験、調査研究コーナーで特別展を開催しました。

また、石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会と共催で「第13回はまなすフェスティバル」を開催しました。ハマナスが咲く時期に多くの方が石狩浜へ訪れ、そこからハマナスや石狩浜の大切さを考えるきっかけになればと考え、ハマナスを五感で楽しむための体験や商品を提供するとともに、石狩浜の自然環境の現状や生物多様性を知るきっかけとなるブースも設けました。

第2章. 事業方針及び位置づけ

表:石狩浜海浜植物保護センター事業方針

	事業方針	事業概要	目指す姿 (石狩浜アクションプラン)
I	自然情報発信・ 体験学習事業	海浜植物や石狩浜の海浜生態系に関わる情報を保護センターの展示室や観察園を用いて発信し、石狩浜への興味の上と郷土愛の醸成を図り、石狩浜の保全に関する意識へつなげる。	石狩浜の自然に対する シビックプライド 浸透のための基盤づくり
II	調査・研究・保 全事業	海浜植物保全に関する生態・生育情報の収集、収集したデータの蓄積・考察・検証から必要な保全対策の検討をする。	データに基づく保全対策
III	自然資源の保 全・活用事業	海浜植物等保護地区における海浜植物や地形の状況把握、過度なレジャー利用に対する注意喚起、本来の保護地区としての利活用に関する維持管理等を実施する。	自然資源の適正管理と 適正利用

【事業分担】

	事業(大項目)	事業(中項目)	正規職員	非正規職員 (会計年度任用職員)	委託事業者
I	自然情報発信・ 体験学習事業	1. 展示室	○	○	
		2. 観察園	○	○	○
		3. ハマナス再生プロジェクト	○	○	○
		4. 体験プログラム	○		○
		5. 情報発信/連携	○		○
		6. 調査研究の発信	○		○
		7. 来館者のニーズ、意識把握	○	○	
II	調査・研究・保 全 事業	1. 現植生・生物相の把握	○		○
		2. 植生管理	○		○
		3. 希少種	○		○
		4. 外来種	○		○
		5. 資料・データの集約・管理	○		○
III	自然資源の 保全・活用事業	1. 保護地区の利用状況把握・監視・ 維持管理	○	○	
		2. 景観保全による観光資源利用	○	○	
		3. 保護地区のルールの普及啓発	○	○	○

第3章. 令和7年度事業計画

I. 自然情報発信・体験学習事業

凡例 →:現状維持 ↗:拡充 ↘:縮小 新:新規事業

項目	目的	年度目標	具体的な業務内容
1. 展示室(P8)			
1-1常設展示の維持管理	石狩浜の成り立ち、海浜植物の生態的な特徴、石狩浜の生態系といった石狩浜の自然環境保全の基礎となる情報について展示をすることで、石狩浜の基礎的な情報を知ってもらい次の興味に繋げる。	事業Ⅱで得た調査データ・標本等を活用した状況を確認する。	↗ ・日常業務として、補修、修繕の有無を点検 ・前年に引き続き見直しをもとにした修正
1-2. 展示室と観察園の連動した見学	展示室のみの利用者が多くみられることから、観察園の利用を促すようなしかけを実施し、海浜植物の普及啓発につなげる。	展示室内での観察園の開花情報の更なる発信と、SNSやオンラインを活用した情報の発信を引き続き実施する。	→ ・日常的に来館者への声かけ ・自発的に観察園利用へつながらる展示の見直し ・クラフト体験を通じた実物観察 ・SNS を活用した開花情報の配信
2. 観察園(P10)			
2-1. ゾーン の目的に沿った植生維持管理	石狩浜で見られる連続した植生帯を現地の調査をもとに展示と連動するように再現し、来館者が快適に園内を利用できるように整える。	再現区:Ⅱ-2-2 で検討した管理手法を用いて管理する。 見本区:主要な海浜植物を短い距離で観察できるように整える。	→ ・職員及び普及員による日常業務として管理
2-2. 園路およびサインの整備・維持管理		観察に適した園路・木道の維持管理や、植物名等のサイン表示の点検・管理・修繕をする。	→ ・日常業務内で点検・管理 ・季節に応じたサインの追加、更新 ・害虫等の防除 ・園内の清掃
3. ハマナス再生プロジェクト(P13)			
3-1. ハマナス再生園の整備・維持管理	ハマナスの咲く石狩浜の風景を未来に残し、ハマナスをシンボルに自然と共生する地域づくりをめざす場の拠点として、現地情報をもとにハマナスを主体とした植生管理を進める。	Ⅱ-2-2 で検討した管理手法を用いてハマナス群落の維持・管理を継続する。	→ ・普及員等による日常業務として管理
3-2. 普及啓発活動		ハマナス再生園を活用した普及啓発活動の実施。 ハマナスの花びらや果実を活用して石狩浜のPRをする企業への協力。	→ ・再生園を使った環境学習や体験プログラムの実施 ・共催イベントの実施(はまなすフェスティバル) ・ハマナスの花弁・果実の採取管理

4. 体験プログラム(P15)				
4-1.施設活用型プログラムの実施	石狩浜の海浜植物をはじめとした、石狩浜の生物多様性について知る機会の創出を目的に、保護センター施設を活用した取り組みやすい仕組みづくりと、アクティブラーニングを主体として進める。	既存のプログラム実施。 体験を通じて海浜植物や海浜地、生物多様性を学べるプログラムの検討・検証。	↗	・教育機関等における環境学習の実施/検証/修正 ・補助教材の見直し/修正
4-2.施設外プログラムの実施	センター外を会場に、石狩浜や保護センターの保全に関わる関係主体と連携し、保全に努める。	関係主体の実施する事業等への協力、広報等の支援の実施。	↗	・連携団体主催事業への積極的な参加(CISE ネット/館ネット) ・SNS や市内回覧を活用した普及啓発
4-3.参加型プログラムの実施	生物多様性に関わる保全活動(調査・研究等)について、一般の方でも取り組める内容で実施し、石狩浜の自然に興味関心を持つ人を増やす。	植生管理と連動した参加型資源活用プログラムの開発。 石狩浜に生息・生育する動植物の調査体験プログラムの開発。	→	・II-2-2で検討した管理手法を活用したプログラムの検討、検証 ・動植物に関する体験プログラムの検討
5. 情報発信/連携(P20)				
5-1.ホームページ維持管理	石狩浜の自然について、遠隔地に向けた普及啓発を目的に、ネットワークを活用した情報発信。また、市民の自主的な石狩浜の保全活動につながる情報の発信、活動の展開を図る。	海浜植物や、保護センターでの情報、石狩浜の生物多様性について広く情報を発信する	→	・調査写真や、観察園の開花情報などを随時ホームページにて更新(目安として月に1度) ・年に3回の機関誌発行 ・市内回覧を活用した普及啓発の推進
5-2.情報誌の発行				
5-3.近隣施設での情報案内				
6. 調査研究の発信(P21)				
6-1. 調査研究報告、学習報告等の掲示	石狩浜の自然に関わる、研究機関や教育機関等による研究や取組について紹介することで、より深い活動について知る機会を創出。	石狩浜に関する研究情報や、環境学習での学習成果等を年2～3件を目標に掲示する。	→	・調査者に活動報告の展示を依頼
7. 来館者のニーズ、意識把握(P22)				
7-1. 来館者からの意見収集	来館者の意見を聞く機会の創出。	新たにオンラインアンケートの活用と、環境学習等の参加者に対して意見を聞く体制を検討する。	→	・オンラインアンケートの活用

II.データに基づく保全対策の実施

凡例 →:現状維持 ↗:拡充 ↘:縮小 新:新規事業

項目	目的	年度目標	具体的な業務内容
1. 現植生・生物相の把握(P27)			
1-1. 石狩浜モニタリング調査	【植物】 石狩浜の植生遷移や変化を把握、観察園における植生管理の基礎データ等を目的に長期的なデータの蓄積を図る。	見本植生区のモニタリングを続ける。 遷移が進む植生帯の状況を把握する。	→ ・現地調査(7~9月)
	【動物】 石狩浜を利用する生物種を対象に、その種の動向について自動撮影カメラ等を用いながら随時状況を確認し、対策等に必要情報を収集する。	必要に応じて、種の生息地マッピング及び、生息状況の確認。	→ ・自動撮影カメラ等による生息状況の確認。
2. 植生管理(P28)			
2-1. 聚富海岸植生再生試験(モニタリング調査協力)	聚富地区における見本植生区の変化を蓄積する。	道総研との連携協力。	→ ・植生調査の実施等
2-2. 海浜植生の維持管理手法の蓄積(海岸草原保全手法の検討)	現地調査データを参考に、海浜植生の効率的な維持管理を模索し、保全管理に関わる知見や技術を蓄積する。	見本植生区の数値に基づいた植生管理手法の検討・検証(観察園、ハマナス再生園)。 自生種による外来種防除実験の検証。	→ ・既存調査区のモニタリング
3. 希少種(P31)			
3-1. 希少種イソスマレの生育状況の把握	希少種イソスマレの生育地について、地理情報及び植生構成を押さえ、環境変化に左右されやすいイソスマレの保全対策に繋げる。	生育が危ぶまれる個体群の保全対策の実施、検証。	↗ ・分布、個体群調査(5月、9月) ・具体的な保全手法の実施(8~9月) ・今後のモニタリング手法について検討

3-2.ハマボウフウの生育状況の把握	保護地区内外のハマボウフウの生育状況の比較と継続的な採取圧による生育への影響を把握し、今後の自然ふれあい地区におけるハマボウフウの科学的データに基づいた持続可能な資源利用への根拠データとする。	設定した調査ラインでエリアごとの生育状況、採取状況について把握する。	→	<ul style="list-style-type: none"> ・サイズ別株数等の記録 ・監視員業務等の情報を用いて採取状況の把握
3-3.その他	環境省及び北海道のレッドリストに記載されている希少種、及び個体群として今後石狩浜で状況を把握する必要がある種(動植物)について、生育・分布情報をモニタリングし、対策に繋げる。	該当する種について生息・生育環境、数等について記録する。	→	<ul style="list-style-type: none"> ・位置情報を記録、分布の把握
4.外来種(P32)				
4-1.現状の把握	石狩浜の生物多様性保全のために、外来種の早期発見と防除の実施を検討する。	他機関や他の調査等の情報をもとに、外来種の早期発見をすると共に、必要に応じて早急な防除対策に努める。	→	<ul style="list-style-type: none"> ・多方面からの情報収集 ・必要に応じた現地調査
5.資料・データの集約・管理(P33)				
5-1.標本の管理	地域資料の保管と、保全を進めるための情報の収集と管理をする。	適切な環境で保存されるように、日常的な点検をする。	→	<ul style="list-style-type: none"> ・標本の定期点検 ・調査報告書の作成、関係機関報告書の収集など
5-2.自然情報の収集・管理	環境調査、モニタリング、その他石狩浜に関わる調査研究の報告書などのデータを一括管理し、保全及び情報発信のデータベースとして構築する。	収集データ及び今後の収集するデータについて、まとめて公開できる体制を検討する。	→	<ul style="list-style-type: none"> ・調査報告書の作成、関係機関報告書の収集など ・既存の蓄積データと今後の調査データを合わせた収集・管理の検討 ・公開の手法検討

Ⅲ.自然資源の適正管理と適正利用

凡例 →:現状維持 ↗:拡充 ↘:縮小 新:新規事業

項目	目的	年度目標	具体的な業務内容
1. 保護地区の利用状況把握・監視・維持管理(P35)			
1-1.車両侵入の有無、誘導ロープ等の設置・修繕	条例に基づいた海浜植物等保護地区の海浜植物等を保全するための維持管理をする。	監視員の情報をもとに現状を把握し、必要に応じた対策を都度実践する。	→
1-2.単管柵の維持管理			→
2. 景観保全による観光資源利用(P35)			
2-1.はまなすの丘公園木道周辺の植生維持管理	海浜植生の維持と、観光地の景観保全を目的にした植生管理を図る。	公園内における維持管理可能で効果的な外来種等の防除を検証する。	→
3. 保護地区のルールを普及啓発(P36)			
3-1.体験プログラムを通じた自生地保全の普及啓発	自然とのふれあいを通じて、保護地区や石狩浜の自然に関する普及啓発を図る。	既存のプログラムや展示と連動した保護地区の普及啓発の実施。	→

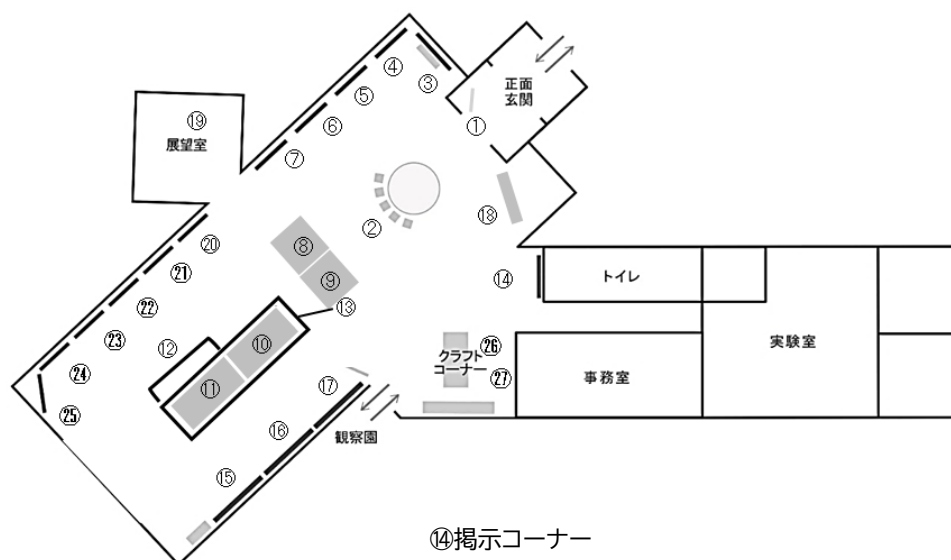
第4章. 活動報告

I. 自然情報発信・体験学習事業

1. 展示室

項目	目的
1-1. 常設展示の維持管理	石狩浜の成り立ち、海浜植物の生態的な特徴、石狩浜の生態系といった石狩浜の自然環境保全の基礎となる情報について展示をすることで、石狩浜の基礎的な情報を知ってもらい次の興味に繋げる。
1-2. 展示室と観察園の連動した見学	展示室のみの利用者が多くみられることから、観察園の利用を促すようなしかけを実施し、海浜植物の普及啓発につなげる。

《展示室概要図》



- | | |
|--------------------|---------------------------|
| ①観察園みどころボード(随時更新) | ⑭掲示コーナー |
| ②石狩浜の成り立ち | ⑮ハマナス再生プロジェクト／ハマナス再生園活動紹介 |
| ③保護地区情報/海浜植物保護のあゆみ | ⑯調査研究コーナー |
| ④生きものごよみ | ⑰石狩浜情報 |
| ⑤石狩浜海浜植物等保護地区 | ⑱イベント情報ボード |
| ⑥石狩浜の地形 | ⑲眺望できる山のイラスト(展望室の窓) |
| ⑦全国の海岸砂丘 | ⑳不安定帯-後浜の植物 |
| ⑧海浜植物の紹介 | ㉑不安定帯-第1砂丘前面の植物(1) |
| ⑨石狩浜の地形と海浜植物 | ㉒不安定帯-第1砂丘前面の植物(2) |
| ⑩石狩浜の生態系模型 | ㉓半安定帯-第1砂丘背面の植物 |
| ⑪石狩浜で見られる生きもの | ㉔安定帯-第2砂丘前面の植物 |
| ⑫石狩浜で見られる希少種 | ㉕安定帯-第2砂丘背面の植物(海岸林) |
| ⑬引き出しクイズ | ㉖クラフトコーナー |
| | ㉗アップサイクルコーナー |

1-1.常設展示の維持管理

年度目標		具体的な業務内容	到達度
事業Ⅱで得た調査データ・標本等を活用した状況を確認する。	↗	石狩浜の成り立ち、海浜植物の生態的な特徴、石狩浜の生態系といった石狩浜の自然環境保全の基礎となる情報について展示をすることで、石狩浜の基礎的な情報を知ってもらい次の興味に繋げる。	↗

令和6年度に作成した樹脂標本の展示を開始したほか、絶滅危惧種の説明パネルを数点増やしました。また、既存の石狩浜の生態系模型をさらに理解が深まるように紹介する生き物を増やし、生き物とのつながりが分かるイラストを布に印刷し机の上に配置しました。

樹脂標本については、目に止まる場所に置いたことから、来館者からすぐに見えるため、手に取って観察している様子がみられました。模型については、より多くの生き物が増えたため、環境学習等で子どもたちの学習の幅が広がりました。

引き出しクイズを大人から子どもまで幅広く利用している様子を頻繁に見られたことから、次年度以降の引き出しクイズをもう少し活用できないか検討してきます。



図 1.1 展示室のようす

1-2.展示室と観察園の連動した見学

年度目標		具体的な業務内容	到達度
展示室内での観察園の開花情報の更なる発信と、SNS やオンラインを活用した情報の発信を引き続き実施する。	→	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な来館者への声かけ ・自発的な利用への展示の見直し ・クラフト体験を通じた実物観察 ・SNS を活用した開花情報の配信 	↗

令和6年度に入口に設置した開花情報ボードについて、今年度についてはセンターの展示の配置、観察園の情報、イベントの告知など保護センターの情報を大まかに設置しました。来館前に観察園の情報をお知らせすることで、昨年度よりも観察園へ向かう方が多く見られました。

次年度以降も引き続き、展示室と観察園の両方の利用を進めていきます。



図 1.2 お知らせボード

2. 観察園

項目	目的
2-1.園路およびサインの整備・維持管理	石狩浜で見られる連続した植生帯を現地の調査をもとに展示と連動するように再現し、来館者が快適に園内を利用できるように整える。
2-2.ゾーンの目的に沿った植生維持管理	

観察園は、開館当初から目的にあった「代表的な石狩浜の植物が見られ、海浜植物の特徴を体験できる場所」を目指して管理をしています。特に、自生地の植生データをもとにより再現を目指している「植生再現区(①～⑩)」は、背丈が低く、植物の種数が少ない後浜から、背丈が高くなり植物の種数が増える海岸林縁まで、石狩浜の植生を特徴づける植物が見られるように管理をしています(図 1.3、表 1.1)。また、来館者が海浜植物の長い地下茎や根を実際に観察・体験できるように「ほりほりゾーン」の設置や、年度別に生長しているハマボウフウが観察できる「ハマボウフウ畑」も設置しています。

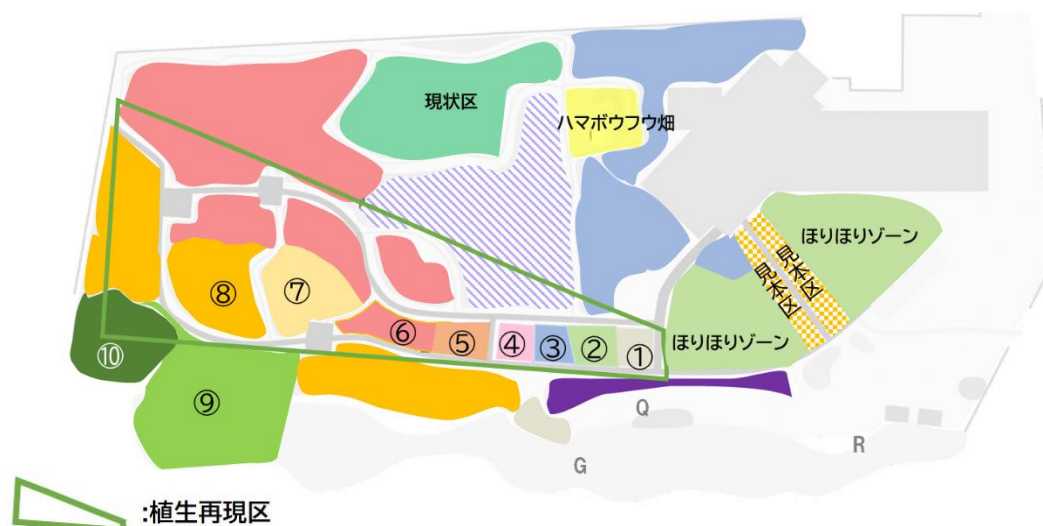


図 1.3 植生管理コンセプト

表 1.1 植生再現区ゾーン分け

No	自然状態	主な構成種
①	後浜～浜崖下・不安定帯	オカヒジキ、ハマヒルガオ、ハマニガナ
②	第一砂丘尾根～斜面・不安定帯～半安定帯	テンキグサ、ハマボウフウ、ウンラン、コウボウムギ
③	第一砂丘斜面～後背平坦地の植生・半安定帯	ハマハタザオ、イソスミレ、ハマエンドウ
④	第一砂丘後背平坦地の植生・半安定帯～安定帯	ハマナスが優占(ハマナスとハマエンドウの混生)

⑤	第一砂丘後背平坦地の植生・安定帯	エゾノカワラマツバ、エゾカワラナデシコ、ハマエンドウ、ハマヒルガオなどとハマナスの混生
⑥ ⑦	第一砂丘後背平坦地～緩傾斜の第二砂丘の植生・安定帯	ハマナス、ミヤマアキノキリンソウ、エゾカワラナデシコ、オオヤマフスマなどとハマナス、エゾスカシユリ、ヒロハクサフジなどの混生
⑧	第二砂丘斜面～尾根部の植生・安定帯	ハマナスと高茎種・蔓性種の混生
⑨	カシワ林縁	ススキ、アキグミ、ツルウメモドキ、ヒロハクサフジ、キンギンボク、ミヤマイボタ、コマユミ、カシワ、ハマナス、アマニュウ、エゾルリトラノオ、ホタルサイコ、クルマバソウ、マイヅルソウ
⑩	カシワ林	ススキ、アキグミ、ツルウメモドキ、ヒロハクサフジ、キンギンボク、ミヤマイボタ、コマユミ、カシワ、ハマナス、アマニュウ、エゾルリトラノオ、ホタルサイコ、クルマバソウ、マイヅルソウ

2-1.ゾーンの目的に沿った植生維持管理

年度目標		具体的な業務内容	到達度
再現区：Ⅱ-2-2 で検討した管理手法を用いて管理する。 見本区：主要な海浜植物を短い距離で観察できるように整える。	→	・職員及び普及員による日常業務として管理	→

再現区及び見本区について、日常的に外来種や内陸性植物の除去をしました。再現区については表 1.2 にあるとおり作業を実施しました。

今年度は全体として、ヒロハクサフジが例年より早く生長したことや、秋に見られるドクガの幼虫が多かった印象を受けました。新たなゾーンとして、主要な海浜植物が短い距離で楽しめる「見本区」の整備をすることで、多くの来館者が海浜植物を楽しめるように整えました。



図 1.4 植生見本区

表 1.2 再現区の作業内容

ゾーン	作業内容
①	春:移植(オカヒジキ) 秋:リター除去、砂の掘起こし、砂かけ 通年:コウボウシバ、海浜植物の間引き、内陸性植物の除草※
②	春:苗の移植(ウンラン)、海浜植物全刈り 秋:リター除去、砂かけ 通年:密度の高い海浜植物の間引き、コウボウシバ・内陸性植物の除草※
③	秋:砂かけ、移植(イソスミレ、ハマハタザオ)、海浜植物全刈り 通年:イソスミレ・ハマハタザオ周辺の除草、コウボウシバ・内陸性植物の除草※
④	秋:ハマナス全刈り、リター除去 通年:密度の高い海浜植物の間引き、剪定(ハマナス)、コウボウシバ・内陸性植物の除草※
⑤	春:除草(株が肥大したスズメノヤリ、チャシパスゲ) 夏:除草(ヒロハクサフジ) 秋:剪定(ハマナス)、除草(コウボウなど) 通年:内陸性植物の除草※※
⑥	夏:除草(ヒロハクサフジ・カセンソウ) 通年:内陸性植物の除草※※
⑦	夏:間引き(ヒロハクサフジ) 通年:内陸性植物の除草※※
⑧	夏:間引き(ヒロハクサフジ) 秋:移植(エゾスカシユリ) 通年:内陸性植物の除草※※
⑨	秋:ススキ、アキグミの刈取り 通年:カシワの稚樹周辺の除草、ススキの適度な刈取り
⑩	秋:ススキ、アキグミの刈取り 通年:外来種の除草

※:スギナ、メヒシバ、ナガハグサ、ヒメスイバ、チガヤなど

※※:ナガハグサ、ヒメスイバ、ヘラオオバコ、カモガヤ、ホソムギ、ブタナ、オオアワダチソウ、ユウゼンギク、イワミツバ、ツルニチニチソウなど

2-2.園路およびサインの整備・維持管理

年度目標		具体的な業務内容	到達度
観察に適した園路・木道の維持管理や、植物名等のサイン表示の点検・管理・修繕をする。	→	<ul style="list-style-type: none"> ・日常業務内で点検・管理 ・季節に応じたサインの追加、更新 ・害虫等の防除 ・園内の清掃 	→

観察園の入口に開花情報をプレートに表示する他、植物名のプレートについて必要最低限の情報を常に見やすい環境作りに努めました。また、いくつかの木道が経年劣化によって修繕が必要となったため、破損した木道を掘り起こし、新しい木材を埋めなおして修理をしました。

3. ハマナス再生プロジェクト

項目	目的
3-1. ハマナス再生園の整備・維持管理	ハマナスの咲く石狩浜の風景を未来に残し、ハマナスをシンボルに自然と共生する地域づくりをめざす場の拠点として、現地情報をもとにハマナスを主体とした植生管理を進める。
3-2. 普及啓発活動	

ハマナス再生プロジェクトは、ハマナスの咲く石狩浜の風景を未来に残し、ハマナスをシンボルに自然と共生する地域づくりを目指すことを目的に、市民・事業者・石狩市が連携をして活動しています。保護センターの隣接地を活用して整備している「ハマナス再生園」は、ハマナス彩る砂丘の風景を再現するための試験地として、参加型の維持管理、環境学習利用や石狩浜をPRするための商品開発などの幅広い活動を支える基盤となっています。



図 1.5 ハマナス再生園(令和 7 年6月)

3-1. ハマナス再生園の整備・維持管理

年度目標		具体的な業務内容	到達度
Ⅱ-2-2 で検討した管理手法を用いてハマナス群落の維持・管理を継続する。	→	・普及員等による日常業務として管理	→

日常の維持管理については、観察園同様に委託業務にて、自生地の見本植生区を参考に、ハマナスの生育を妨げる内陸性植物の除草や剪定、自生地の植生に基づいた種の移植、園路の除草などの手法を蓄積しました。また、日常的に発生する除草作業時に出てきく植物を活用し、ブーケやリースづくりに再利用しました。一連の取組について、展示室に展示しました(図 1.6)。



図 1.6 アップサイクルコーナー

3-2. 普及啓発

年度目標		具体的な業務内容	到達度
ハマナス再生園を活用した普及啓発活動の実施。 ハマナスの花びらや果実を活用して石狩浜のPRをする企業への協力。	→	・再生園を使った環境学習や体験プログラムの実施 ・共催イベントの実施(はまなすフェスティバル) ・ハマナスの花弁・果実の採取管理	↗

日常的に、保護センターで実施する環境学習プログラム内において、ハマナス再生園での取組みを紹介しています。今年度は、さまざまな手法を用いてハマナスに関連した体験プログラムを実施しました。

昨年度に引き続き、再生園の花や実を利活用する事業者や市民による参加型の植生管理作業日を「ハマナス Healthy タイム」や、再生園の植生管理と、刈り取った植物を利用する体験イベント「ハマナス Study ツアー」を年に3回開催しました(表 1.3)。



図 1.7 Healthy タイム

表 1.3 ハマナス再生園を活用したイベント等

日にち	参加者数	内容・備考
5月18日(日)	8人	【ハマナス Study ツアー】 チガヤの穂の除去、チガヤの穂でかざるリースづくり、ミニレクチャー
7月10日(木)	5人	【ハマナス Healthy タイム】 チガヤ除去の刈取り、ハマナスビネガーシロップ試飲、ハマナスミニレクチャー
7月13日(日)	3人	【ハマナス Study ツアー】 チガヤの刈取り、イネ科の穂とアキグミの枝でガーランドづくり、ミニレクチャー
9月13日(土)	4人	【ハマナス Healthy タイム】 ハマナス苗(18個)、草原種苗(45個)の移植、チガヤの刈取り
10月4日(土)	15人	【ハマナス Healthy タイム】 チガヤ除去の刈取り、ハマナスの苗づくりと、苗の植え替え、ハマナスの実のローズヒップティー試飲、ミニレクチャー
10月5日(日)	7人	【ハマナス Study ツアー】 チガヤの刈取り、チガヤの茎でしめ縄リースづくり、ミニレクチャー

平成25年から続けている「はまなすフェスティバル」は、今年で13回目となり、ハマナスの花が最盛期を迎える時期に合わせて開催しています。「いしかり本町 灯台とハマナス Day」と同時開催し、石狩本町地区を楽しめるお祭りになっています。ハマナス再生園で花摘みと外来種ヒメスイバの除草体験、保護センターの展示を活用したハマナスなぞときクイズ、石狩浜の生物多様性を表したイラスト顔出しパネル、野外ブースを会場に花びらを使った蒸留実演、ハマナスを使った食品や雑貨の販売、ワークショップなどのブースを設け、約600名が来場しました。

石狩浜の保全への関心を広げるために、石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会では、ハマナスを使った化粧品や食品など(ハマナスプロダクツ)を参加事業者が開発しています。ハマナスプロダクツや保護センター事業で使用する花卉と果実を、ハマナス再生園で花卉を約9.8kg、果実を約3kgそれぞれ収穫しました。



図 1.8 第13回はまなすフェスティバルの様子

4. 体験プログラム

項目	目的
4-1.センターを活用したプログラムの実施	石狩浜の海浜植物をはじめとした、石狩浜の生物多様性について知る機会の創出を目的に、保護センター施設を活用した取り組みやすい仕組みづくりと、アクティブラーニングを主体として進める。
4-2.センター外での普及啓発の実施	センター外を会場に、石狩浜の海浜生態系を中心として、自然環境に興味を持ってもらうための普及啓発を実施する。
4-3.公募型プログラムの実施	生物多様性に関わる保全活動(調査・研究等)について、一般の方でも取り組める内容で実施し、石狩浜の自然に興味関心を持つ人を増やす。

4-1.センターを活用したプログラムの実施

年度目標		具体的な業務内容	到達度
既存のプログラム実施。 体験を通じて海浜植物や海浜地、生物多様性を学べるプログラムの検討・検証。	↗	・教育機関の環境学習の実施/検証/修正 ・補助教材の見直し/修正	↗

石狩市内の教育機関から環境教育プログラムの実施要望があり、のべ 11 校 332 名の利用がありました(表 1.4)。令和6年度の実績は、のべ 14 校 443 名の利用があり、教育機関の要望は年度によって増減がありますが、毎年 10 校以上の受け入れをしています。

I-1-1 で報告したとおり樹脂標本の設置や、生態系模型の修正をしたところ、環境学習でも多くの児童生徒が興味示して学習をしていました。引き続き、興味がわくような展示や内容に整え、学びに繋がるプログラムと展示の連携を進めていきます。

表 1.4 教育機関受入れ一覧

実施日	教育機関	学年	テーマ/内容	人数
6月23日	生振小学校	1年生	石狩浜ってどんなところ？ ・海浜植物について ・ハマナスの観察 ・クラフト体験 ・ほりほり体験	14
6月26日	緑苑台小学校	4年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について	50
6月27日	石狩中学校	1年生	生物多様性ってなんだろう？ ・石狩浜の自然 ・石狩浜の課題と対策 ・漂着物からつながりを考える	13
7月3日 4日	南線小学校	3年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について	132

7月18日	花川北陽 認定こども園	年中/年長	ハマナスの植え替え 石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について	36
7月30日	石狩翔陽高校	3年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について	3
9月3日	石狩八幡小学校	5年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について ・ハマナスの観察 ・ほりほり体験	19
9月10日	厚田学園	4年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について	2
10月1日	花川小学校	3年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について ・ハマナスの観察 ・ほりほり体験 ・石狩灯台について	36
10月2日	生振小学校	1年生	石狩浜ってどんなところ？ ・クラフト体験(フォトスタンド) 海辺にあつまるもの調べてみよう！	14
11月13日	杉並工科高等学校	2年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について	13
利用件数(のべ)/環境学習受入れ人数(のべ)				11件 /332名

常時プログラムとして、根や地下茎を掘り起こすことで海浜植物の生態を学ぶ「ほりほり体験」、漂着物を使った「漂着物のクラフト体験」に加えて、海浜植物のタネで作る「海浜植物の標本づくり」を新設しました。



図 1.9 海浜植物の標本づくり

夏休みには、常時プログラムをアレンジして「石狩浜の自然であそぼう-クラフト・実つきWEEK-」と題して夏休み期間中に実施しました。ハマナスの実が収穫できる時期には、「ハマナスの実つき体験-石狩浜の夏の風物詩-」として多くの方にハマナスの実摘みを体験してもらいました。

また、来館者の多い石狩さけまつりの開催と合わせて、3-1 で報告した作業時に出た植物を使ったブーケづくり体験を実施しました。参加者には必ず展示を見る様な仕掛けをすることで、普及啓発も込めて実施しました。

表 1.5 イベント一覧

日にち	参加者数	作業内容・備考
7月26日(土)～ 8月24日(日)	のべ102人	石狩浜の自然であそぼう-クラフト・実つきWEEK- クラフト体験-オール石狩浜でつくる- 海浜植物のタネ標本づくり-夏休みリバイバル- ハマナスの実つき体験-石狩浜の夏の風物詩- 石狩浜探検道具-調査道具を見ちゃおー
9月27日(土) 9月28日(日)	47人	ブーケづくり体験



図 1.10 夏休みイベント告知チラシ

4-2. センター外での普及啓発の実施

年度目標		具体的な業務内容	到達度
既存のプログラム実施。 体験を通じて海浜植物や海浜地、 生物多様性を学べるプログラムの 検討・検証。	↗	・関係主体の実施する事業等への協力、広報等の支援 ・教育機関の環境学習の実施/検証/修正 ・補助教材の見直し/修正	↗

センター外に持ち運びができるクラフト体験や海浜植物の標本づくり、CISEネットワークで作成した石狩浜のトランクキットを活用して市内外で開催したイベントに出展しました(表 1.5)。

クラフト体験については人気が非常にあり、第15回科学の祭典 in 石狩や、わくわく体験コーナーとして石狩市民図書館で開催すると、「クラフト体験をするためにイベントに来ました」「もっと体験したくてセンターに来館しました」というお声もいただき、海浜植物を身近に感じる導入体験として効果が高いと実感しています。

石狩市浜益区で実施しているグリーンインフラの実証実験に伴う小・中学校での授業、「一般社団法人ちせ」が主催するイベント、石狩市の自然に関する出前授業では標本などを活用し、センター内外問わず生物多様性の普及啓発を進めています。



図 1.11 第 15 回科学の祭典 in 石狩



図 1.12 標本活用の様子

表 1.6 センター外での普及啓発の実施

日にち	作業内容・備考
5月1日(木)	出前講座
5月21日(水)	川下海岸の昔・今・未来グリーンインフラを学ぶ
6月11日(水)	双葉小学校(出前講座)
7月16日(水)	花川小学校(出前講座)

9月 1日(月)	浜益小学校(出前講座)
9月 14日(日)	第15回科学の祭典 in 石狩/130名体験 (主催:科学の祭典 in 石狩 実行委員会)
9月 20日(土)	ウミベオロジー/石狩海辺学 2025-ウミベの寄り鯨- (主催:いしかり館ネットワーク)
11月 1日(土)	第19回環境科学展(主催:青少年科学館)/のべ56組 65名体験
12月 20日(土)	わくわく体験コーナー(主催:社会教育課)/57名体験
1月 24日(土)/25日(日)	CISE サイエンスフェスタ 2026(主催:CISE ネットワーク)
2月11日(祝水)	NHK ゆきんこフェスタ(NHK札幌放送局)
計 12回	

4-3.参加型自然情報の収集

年度目標	具体的な業務内容	到達度
植生管理と連動した参加型資源活用プログラムの開発。 石狩浜に生息・生育する動植物の調査体験プログラムの開発。	→ ・Ⅱ-2-2で検討した管理手法を活用したプログラムの検討、検証 ・動植物に関する体験プログラムの検討	↗

今年度は、石狩浜に生息するイソコモリグモの生息調査と、海浜植物にくる昆虫について、WEBGIS を活用しながらデータを集めることを目的に市民参加型の調査イベントを開催いたしました。参加人数は15名でした。海浜植物と昆虫を両方観察することで、生き物のつながりを学んでもらうイベントとなりました。



図 1.13 石狩浜生き物調査隊の様子

5. 情報発信/連携

項目	目的
5-1.ホームページ維持管理	石狩浜の自然について、遠隔地に向けた普及啓発を目的に、ネットワークを活用した情報発信。また、市民の自主的な石狩浜の保全活動につながる情報の発信、活動の展開を図る。
5-2.情報誌の発行	
5-3.近隣施設での情報案内	

5-1.ホームページ維持管理

5-2.情報誌の発行

5-3.近隣施設での情報案内

年度目標	具体的な業務内容	到達度
海浜植物や、保護センターでの情報、石狩浜の生物多様性について広く情報を発信する	→ ・調査写真や、観察園の開花情報などを随時ホームページにて更新(目安として月に1度) ・年に3回の機関誌発行 ・市内回覧を活用した普及啓発の推進	→

ホームページのリニューアルに伴い、内容の見直し、修正しました。ホームページからインスタグラムの情報が得やすいように、配置の工夫などを改めました。インスタグラムについては、クラフト体験をした来館者へのカードに QR を入れ込み、外部でのイベントでも積極的に PR しています。

また、石狩市民図書館にある海浜植物花壇についても、1 か月に 1 度は点検できるように調整し、除草や苗の補植をしました。



図 1.14 インスタグラムの普及啓発



図 1.15 海浜植物花壇

6. 調査研究の発信

項目	目的
6-1. 調査研究報告、学習報告等の掲示	石狩浜の自然に関わる、研究機関や教育機関等による研究や取組について紹介することで、より深い活動について知る機会を創出。

6-1. 調査研究報告、学習報告等の掲示

年度目標	具体的な業務内容	到達度
石狩浜に関する研究情報や、環境学習での学習成果等を年2～3件を目標に掲示する。	→ ・調査者に活動報告の展示を依頼	↗

石狩浜周辺で実際に取り組んでいる専門的な研究について、来館者に知ってもらうため、ポスターや標本、調査道具などを表 1.9のとおり掲示しました。夏休みの企画に連動して掲示した「石狩浜探検道具—調査道具を見ちゃお—」については、実際に本物のアズマヒキガエルの大きさの模型を作成し、重さも体験できるように重りも中に入れて設置しました。

表 1.7 調査研究報告 掲示一覧

No	期間	内容
①	4月29日(月)～5月28日(水)	2024年度昆虫調査体験の報告
②	5月28日(水)～7月25日(金)	浜益区グリーンインフラの取組
③	7月26日(金)～8月9日(土)	石狩浜探検道具—調査道具を見ちゃお— 名無沼のアズマヒキガエル
④	8月10日(日)～11月3日(祝月)	石狩浜探検道具—調査道具を見ちゃお— 防風林のキタハウネンエビ



図 1.16 調査研究報告 掲示様子

7. 来館者のニーズ、意識把握

項目	目的
7-1. 来館者からの意見収集	来館者の意見を聞く機会の創出。

7-1. 来館者からの意見収集

年度目標	具体的な業務内容	到達度
新たにオンラインアンケートの活用と、環境学習等の参加者に対して意見を聞く体制を検討する。	→ ・オンラインアンケートの活用	→

今年度の目標として、オンラインアンケートの活用を検討していましたが、保護センターで活用は難しかったため、はまなすフェスティバルと石狩さけまつりに重点的を置き、来場者アンケートを実施しました。はまなすフェスティバルでは、感想を中心に 103 名の方から回答をいただきました。さけ祭りについては、アップサイクルしたブーケ作りに合わせて、アンケートを利用した展示物の理解度調査を2日間で33名に実施しました。

結果として、両者とも札幌市からの参加が多く、石狩さけまつりについては90%以上が市外からの来場となっていました。また、両方のアンケートから半数以上が初めて保護センターに来館したとの回答から、大きなイベントの開催によって、石狩浜の自然を普及啓発する入口のきっかけになっていることが言えます。

石狩さけまつりに実施したアンケートでは、展示を見ていただいて回答いただいた部分から、伝わりにくい点など、今後の展示づくりに向けた改善点にもつながりました。

アンケートの詳細な結果については、42ページに掲載しております。

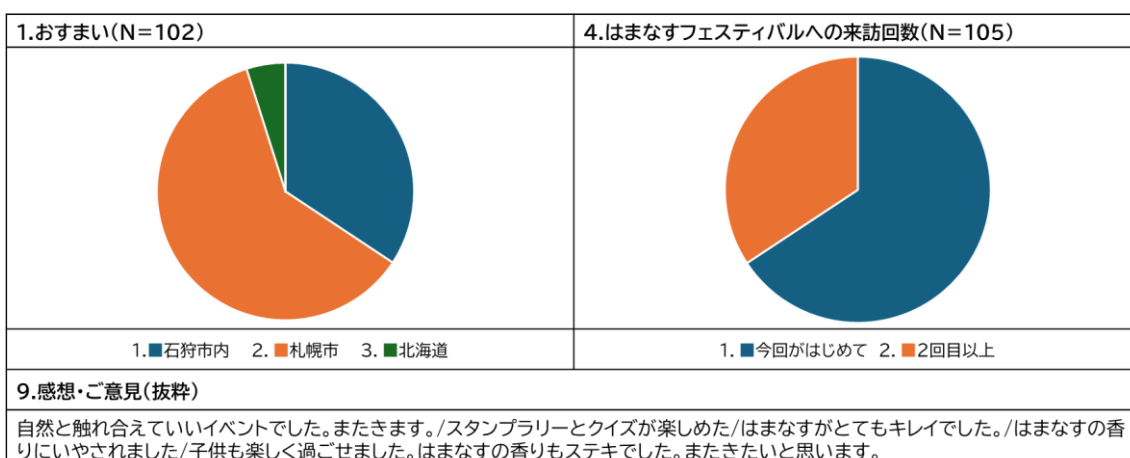


図 1.16 はまなすフェスティバルアンケート(抜粋)

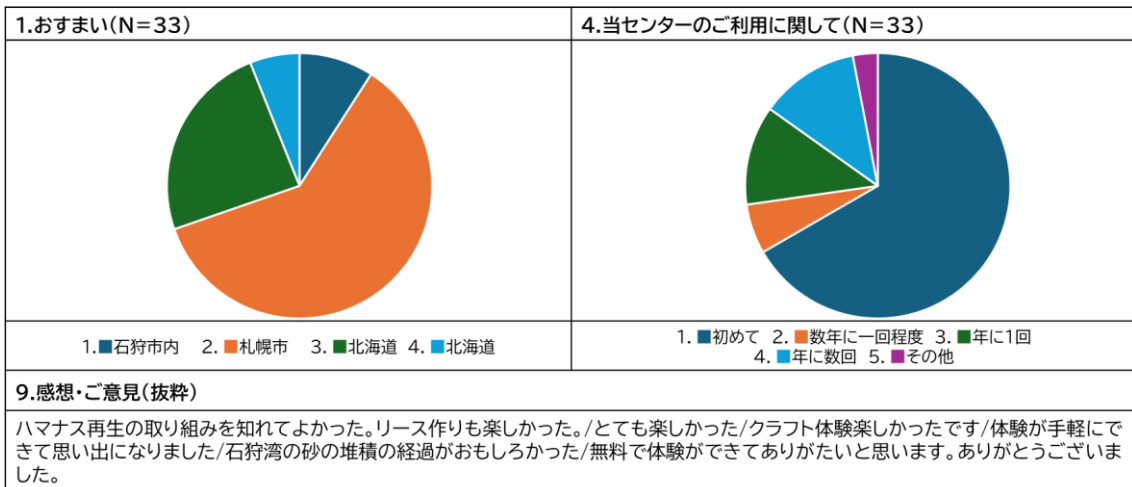


図 1.17 石狩さけまつりアンケート(抜粋)

Ⅱ.データに基づく保全対策の実施

1.現植生・生物相の把握

項目	目的
1-1. 石狩浜モニタリング調査	【植物】 石狩浜の植生遷移や変化を把握、観察園における植生管理の基礎データ等を目的に長期的なデータの蓄積を図る。
	【動物】 石狩浜を利用する生物種を対象に、その種の動向について自動撮影カメラ等を用いながら随時状況を確認し、対策等に必要な情報を収集する。

1-1. 石狩浜モニタリング調査

年度目標	具体的な業務内容	到達度
【植物】 見本植生区のモニタリングを続ける。 遷移が進む植生帯の状況を把握する。	→ ・現地調査(7～9月)	→

今年度は、計 29か所 40 区(安定帯16か所 24 区、半安定帯 3 か所 3 区、不安定帯 10 か所 13 区)で植生を記録しました。このうち 7 か所 14 区は地方独立行政法人北海道立総合研究機構(以下道総研)の石狩浜植生再生試験の再生目標区です(図 2.1 の赤色ピンマーク)。

今年度は、安定帯の一部で、ドクガの影響によるハマナスの植被率の低下が見られました(図 2.2、2.3)。各調査区で3～5年間の調査結果が得られており、次年度以降、まとめて変化の傾向を把握していきます。



図 2.1 植生調査区位置



図 2.2 ハマナスの減少が見られた調査区(左:R6年、右:R7年)

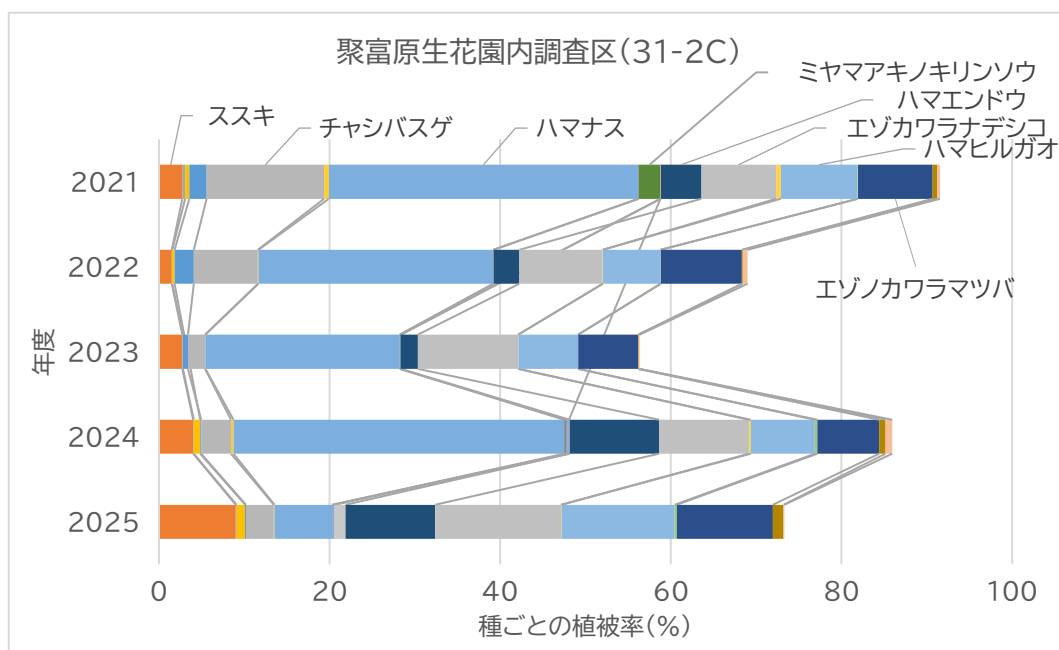


図 2.3 図2.2の植被率の変化

年度目標	具体的な業務内容	到達度
【動物】 必要に応じて、種の生息地マッピング及び、生息状況の確認。	→ ・自動撮影カメラ等による生息状況の確認。	→

今年度は、他事業(自然保護課業務)で設置した自動撮影カメラの情報を石狩浜に関わる部分について共有し、蓄積しました。

2. 植生管理

項目	目的
2-1. 聚富海岸植生再生試験 (モニタリング調査協力)	聚富地区における見本植生区の変化を蓄積する。
2-2. 海浜植生の維持管理 手法の蓄積 (海岸草原保全手法の検討)	現地調査データを参考に、海浜植生の効率的な維持管理を模索し、保全管理に関わる知見や技術を蓄積する。

2-1. 聚富海岸植生再生試験(モニタリング調査協力)

年度目標		具体的な業務内容	到達度
道総研との連携協力。	→	・植生調査の実施等	→

北海道立総合研究機構が、海浜植物群落や原生花園を維持・再生するための試験を令和2年より聚富原生花園および海側の砂丘草原で実施しています(石狩浜植生再生試験)。

調査手法については、内陸性植物の侵入が著しい地点の表土を剥ぎ取る「掘取区」、掘り取った土を積み上げる「盛土区」、処理を施さない「対象区」、内陸性植物の侵入がほとんどない地点に「再生目標区」を設け、処理後の植生回復過程の把握や再生目標区の植生モニタリング等を実施しています。保護センターも、植生モニタリング調査に協力しました。(調査期間:令和2~7年)

2-2. 海浜植生の維持管理手法の蓄積(海岸草原保全手法の検討)

年度目標		具体的な業務内容	到達度
見本植生区のデータに基づいた植生管理手法の検討・検証(観察園、ハマナス再生園)。自生種による外来種防除実験の検証。	→	・既存調査区のモニタリング	→

今年度については、観察園内に設置した調査区 21 区(図 2.4)、ハマナス再生園では調査区 22 区(図 2.7)で植生を記録しました。

【観察園】

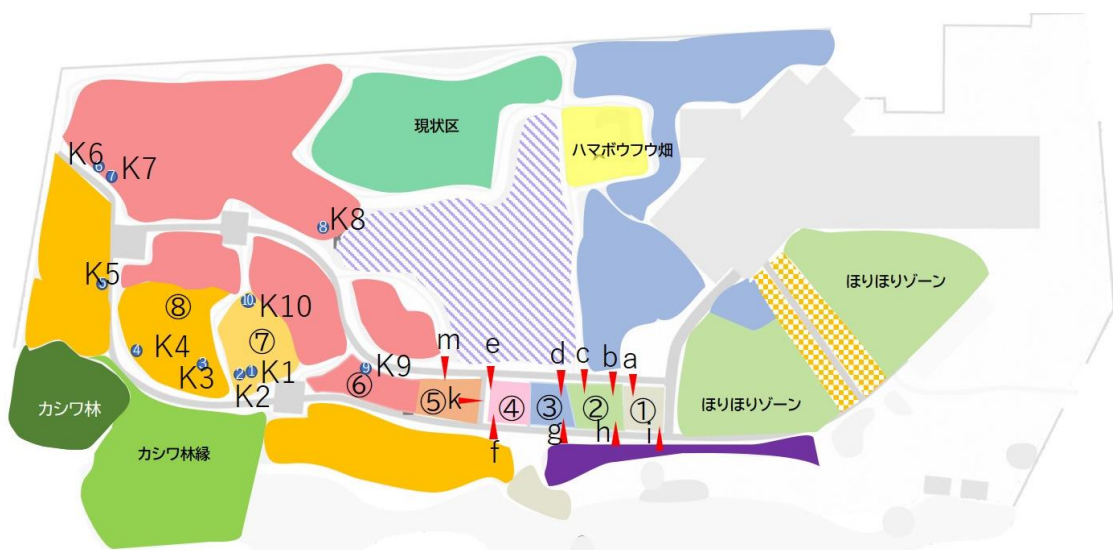


図 2.3 観察園植生調査区位置

再現区(①~⑧)の植生調査の結果を分析(クラスター分析)すると、①~③ではハマヒルガオ-コウボウムギを含むグループ、④~⑧はハマナスを含むグループに大まかに分類されました。さらに、①~③はコウボウムギ、④~⑧はヒロハクサフジの量によって、グループが細分される結果となりました。分析結果の中には、見本植生区と異なるグループに分類される植生もありました。

観察園は、来館者に海浜植物を伝える役割もあるため、海浜植物を被圧するススキや牧草類を除去していること、ハマナスの生長が旺盛な環境条件下にあることなどが要因となり、一部の再現区が見本植生区と違うグループに分類されたと考えられます。今後は、管理目標とする植生の細分化は止め、植生タイプを3グループ程度に集約することも検討していく必要があります。

調査結果については、調査研究報告書第14号にまとめる予定です。



図 2.4 ③エリア(調査区d)



図 2.5 ⑥エリア(調査区 k)

【ハマナス再生園】



図 2.6 ハマナス再生園植生調査区位置

ハマナス再生園では、非管理区の一部でチガヤとススキの増加が見られました。ハマナスの生育への悪影響が懸念されるチガヤの増加を抑えるために、令和5年から、ハマナスの海岸草原種の混植効果を検証するために調査区を設けています。チガヤを刈り取った後にエゾカワラナデシコやエゾノカワラマツバなど海岸草原種の苗の移植したところ、2年経過した現段階では海岸草原種の生長が遅く、チガヤの抑制には至っておらず、再びチガヤが植被率を上げている状態でした。次年度以降、海岸草原種の植被率が上がってくるかなどに注目して、引き続きモニタリングする必要があります。



図 2.7 非管理区の経年変化様子(S1) ※左から令和5年、令和6年、令和7年



図 2.8 海岸草原種を移植した区(S16)※左から令和5年防除実施直後、令和6年、令和7年

3. 希少種

項目	目的
3-1.希少種イソスミレの生育状況の把握	希少種イソスミレの生育地について、地理情報及び植生構成を押さえ、環境変化に左右されやすいイソスミレの保全対策に繋げる。
3-2.ハマボウフウの生育状況の把握	保護地区内外のハマボウフウの生育状況の比較と継続的な採取圧による生育への影響を把握し、今後の自然ふれあい地区におけるハマボウフウの科学的データに基づいた持続可能な資源利用への根拠データとする。
3-3.その他	環境省及び北海道のレッドリストに記載されている希少種、及び個体群として今後石狩浜で状況を把握する必要がある種(動植物)について、生育・分布情報をモニタリングし、対策に繋げる。

3-1. 希少種イソスミレの生育状況の把握

年度目標		具体的な業務内容	到達度
生育が危ぶまれる個体群の保全対策の実施、検証。	↗	<ul style="list-style-type: none"> ・分布、個体群調査(5月、9月) ・具体的な保全手法の実施(8~9月) ・今後のモニタリング手法について検討 	→

令和4年度より続けている生育状況調査から(石狩浜海浜植物保護センター調査報告第13号)、令和6年度より2地点の内陸性植物を刈取り、イソスミレの状況についてモニタリングしています。

今年度は、刈取りの効果を検証するために刈取り区を追加し、効果の検証のために結実株数を調査項目に加えました。調査結果については、表2.2のとおりです。昨年度同様に、9月に刈取りをし、事後調査ではほとんどの株が生存していることから、今後も刈取り区を増やすとともに、刈取り区と対照区で開花結実状況を調査していきます。なお今年度の調査については石狩浜海浜植物保護センター調査報告第15号として報告する予定です。

表2.1 イソスミレ生育状況調査地点と年度別調査実施状況

調査地点 年度	河口 (Kako)	親船 A_W (OyaA_W)	親船 A_E (OyaA_E)	親船 B	親船 C_N (OyaC_N)	親船 C_S (OyaC_S)	無事の民 (Muko)	三線
2022(R4)	○	○	○	○			△	△
2023(R5)				△	○	○	△	△
2024(R6)	○◆	○◆	○◆		○◆	○◆	○刈	△刈
2025(R7)	●	●刈	●		●	●	●刈	△刈

△:株の確認のみ ○:調査区設定・開花株数カウント ●:結実株数カウント ◆:植生調査

表2.2 2025年のイソスミレの調査区当たりの株数、開花数、結実数

	河口 (Kako)	親船 A_W (OyaA_W)	親船 A_E (OyaA_E)	親船 C_N (OyaC_N)	親船 C_S (OyaC_S)	無事の民 (Muko)	三線
調査区面積	4m×2m	4m×4m	4m×4m	4m×4m	4m×4m	7m×3.5m	—
株数	58	21	36	18	21	5	2
開花株数	51	20	33	15	16	3	2
結実株数	27	6	17	8	9	1	0



図 2.9 周辺の状況と、刈取り後の様子

3-2.ハマボウフウの生育状況の把握

年度目標		具体的な業務内容	到達度
設定した調査ラインでエリアごとの生育状況、採取状況について把握する。	→	・サイズ別株数等の記録 ・監視員業務等の情報を用いて採取状況の把握	→

過去の調査から、ハマボウフウの生育状況の変化は数年おきの調査でも把握できると判断し、今年度は、現地調査は実施せず、次年度以降の調査方法を検討しました。

次年度以降は、ラインの長さは令和6年度、項目は令和5年度の調査をベースとして、5つの調査エリアを1~2エリアずつ3年を1サイクルとして調査することとしました。

表2.3 ハマボウフウ調査の経過

	2022(R4)年	2023(R5)年	2024(R6)年
調査区 ライン数 面積	・7箇所7区 ・区面積20m×20m	・5箇所16ライン ・ライン幅長2m×42m	・6箇所6ライン ・ライン幅5m長100m ・ライン上25m毎に5m×5m区
調査エリア	親船地区外1/親船2/弁天1 河口1/知津狩1	親船2/弁天2/知津狩1	親船地区外2/親船地区2/河口地区1/知津狩1
調査項目	15cm以上株数・花茎有無	3段階のサイズ毎の株数・花茎有無	株有無
課題	パッチ状分布のため、調査区位置の選定が評価に影響する。 成帯構造の一部だけの調査となり、海側、陸側の状況を把握しにくい。	群落内の動態が把握できるが、小さい株のカウントに時間を要する。 成帯構造の海側だけの調査となり、陸側の状況を把握しにくい。	成帯構造に沿った分布を概観できるが、量的な評価は難しい。

3-3.その他

年度目標		具体的な業務内容	到達度
該当する種について生息・生育環境、数等について記録する。	→	・位置情報を記録、分布の把握	→

石狩浜に生育する希少種および限定的な分布をする種について(表2.4)、生育状況の確認をしています。

令和5年度より調査対象であるエゾスカシユリは、代表的な海岸草原を作り、周囲の植生変化から影響を受けやすい種と位置づけ、開花時期に位置情報を記録しています。3年間の調査結果から、開花量の変動はあるものの分布に大きな変化が見られなかったため、今後は隔年でのモニタリングを検討しています。



図 2.11 エゾスカシユリ

エゾチドリは、石狩浜において限定的な分布で、今後の保全対策を検討するために、基礎情報の取得を目的に、一定ルートと昨年より設けた区画内で、位置情報を記録しました。次年度も同様のルート、区画内で位置情報を取得し、変化の状態を把握する予定です。



図 2.10 エゾチドリ

表 2.4 石狩浜アクションプラン付表1⁽¹⁾のうち 2023 年以降の生育確認種

	絶滅危惧種指定 ⁽²⁾	2023	2024	2025
イソスミレ	VU/R	○ ⁽³⁾	○	○
エゾチドリ	-	○	○	○
クゲヌマラン	VU/	○		
エゾスカシユリ	-	○	○	○
エゾリトラノオ	-	○		
ハマハマヤスリ	-/R	△ ⁽³⁾	○	△
センダイハギ	-	△		
エゾナミキ	VU/-	△	△	
サワギキョウ	-	△	△	
ヤマジャクヤク	NT/R	○		
ミクリ	NT/R	△		

(1)石狩浜の海浜生態系において確認されている希少種および限定的な分布等から留意が必要な種(植物)、21種の一覧

(2)絶滅危惧種カテゴリーは、環境省(2025)/北海道(2001)

(3)○は位置情報取得、△は視認のみ

4. 外来種

項目	目的
4-1. 現状の把握	石狩浜の生物多様性保全のために、外来種の早期発見と防除の実施を検討する。

4-1. 現状の把握

年度目標	具体的な業務内容	到達度
他機関や他の調査等の情報をもとに、外来種の早期発見をすると共に、必要に応じて早急な防除対策に努める。	→ ・多方面からの情報収集 ・必要に応じた現地調査	→

今年度については、夏休みの時期に合わせてアズマヒキガエルの防除事業に関する普及啓発と共に、ペットの終生飼育をお願いするポスターを掲示しました。



図 2.12 普及啓発ポスター

5. 資料・データの集約・管理

項目	目的
5-1.標本の管理	地域資料の保管と、保全を進めるための情報の収集と管理をする。
5-2. 自然情報の収集・管理	環境調査、モニタリング、その他石狩浜に関わる調査研究の報告書などのデータを一括管理し、保全及び情報発信のデータベースとして構築する。

5-1.標本の管理

年度目標	具体的な業務内容	到達度
適切な環境で保存されるように、日常的な点検をする。	→ ・標本の定期点検 ・調査報告書の作成、関係機関報告書の収集など	→

令和6年に引き続き保護センターの日常業務として湿度・温度の管理をし、必要に応じて除湿剤等を追加して状態の現状を確認しました。冬季閉館後には全ての防虫剤の取り換え、状態の確認作業を実施しました。

5-2. 自然情報の収集・管理

年度目標	具体的な業務内容	到達度
収集データ及び今後の収集するデータについて、まとめて公開できる体制を検討する。	→ ・調査報告書の作成、関係機関報告書の収集など ・既存の蓄積データと今後の調査データを合わせた収集・管理の検討 ・公開の手法検討	→

今年度は、自然保護課の業務として実施している生物多様性に関する GIS データの構築を進めました。また、今年度から展示している樹脂標本についても、経年劣化が見られるため、修正や新規の標本を作製しました。



図 2.13 樹脂標本の修正及び作製

Ⅲ.自然資源の適正管理と適正利用

1. 保護地区の利用状況把握・監視・維持管理

項目	目的
1-1.車両侵入の有無、誘導ロープ等の設置・修繕	条例に基づいた海浜植物等保護地区の海浜植物等を保全するための維持管理をする。
1-2.単管柵の維持管理	

1-1.車両侵入の有無、誘導ロープ等の設置・修繕

1-2.単管柵の維持管理

年度目標		具体的な業務内容	到達度
監視員の情報をもとに現状を把握し、必要に応じた対策を都度実践する。	→	<ul style="list-style-type: none"> ・監視員の配置 ・現状の保護地区の監視、車両侵入への対応、ロープの補修等を実施 ・柵の維持管理 ・管理者との情報共有 	→

海浜植物等保護地区監視員を常駐し、保護地区の看板の設置、保護柵の修繕、禁止行為への指導等を継続して実施しました。

2. 景観保全による観光資源利用

項目	目的
2-1. はまなすの丘公園木道周辺の 植生維持管理	海浜植生の維持と、観光地の景観保全を目的にした植生管理を図る。

2-1. はまなすの丘公園木道周辺の 植生維持管理

年度目標		具体的な業務内容	到達度
公園内における持続可能で効果的な外来種等の防除を検証する。	→	・監視業務による植生管理	→

今年度年については、監視業務内ではまなすの丘公園に設置する木道周辺に生育する外来種(ニセアカシア)や、内陸性植物(アキグミ)の除草を実施しました。

3. 保護地区のルールの普及啓発

項目	目的
3-1. 体験プログラムを通じた自生地保全の普及啓発	自然とのふれあいを通じて、保護地区や石狩浜の自然に関する普及啓発を図る。

年度目標	具体的な業務内容	到達度
既存のプログラムや展示と連動した保護地区の普及啓発の実施。	→ ・海浜植物を活用したプログラムの作成	→

今年度については、中学校及び高校での探究学習に合わせて、保護区の設置や現在の課題について取り組むプログラムを組み込みながら実施しました。



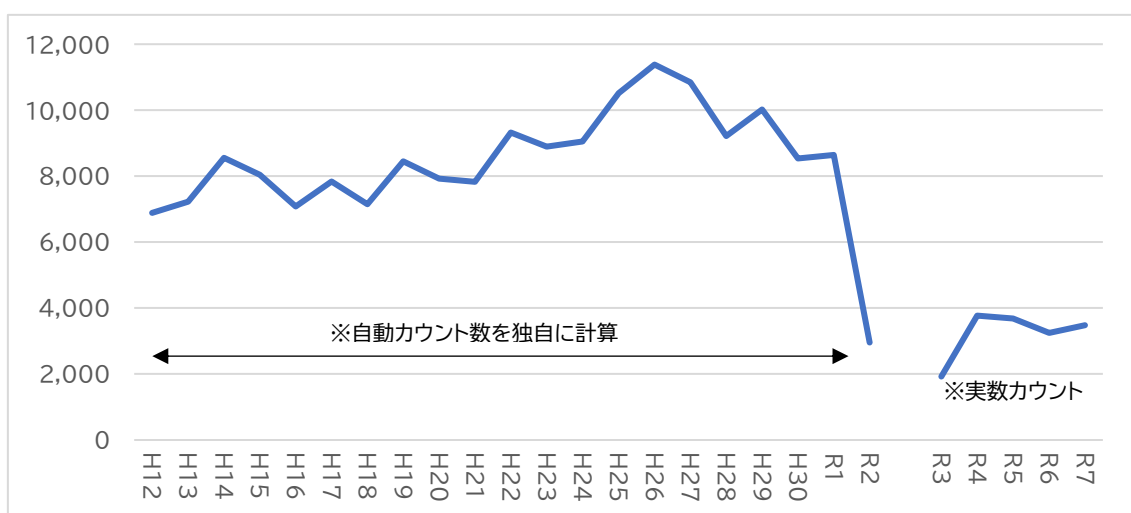
図 3.1 環境学習の様子

第5章. 利用状況

(1) 年度別にみる来館者数の比較

今年度の開館期間中の来館者数は 3,481 人でした。令和6年度と今年度の来館者数の月変化と年度比較、平成 12 年度からの来館者数の年変化は、以下のグラフに示したとおりです(表 1、表 2)。来館者の数字は令和元年の新型コロナウイルスによる来館者の減少が見られますが、入り口についていたカウンターによる過重カウントも原因の一つと考えられます。令和3年度後半から普及員による実数カウントをしています。

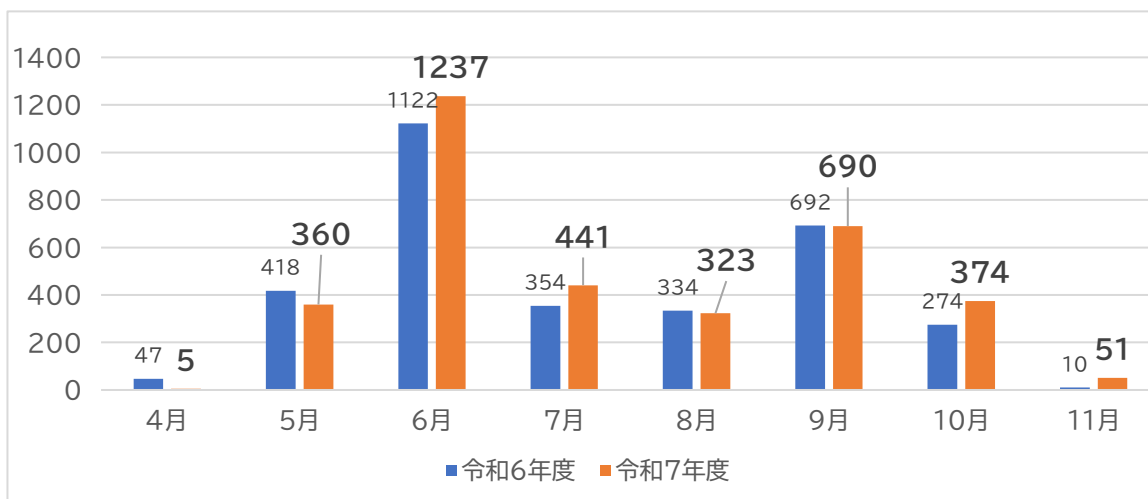
表1. 平成 12 年度～今年度の来館者数の年変化



※R2.4.29～R2.6.7 まで臨時休館(新型コロナウイルス感染拡大防止のため)

※R3.5.16～R3.6.20、R3.8.27～R3.9.30 まで臨時休館(新型コロナウイルス感染拡大防止のため)

表2. 令和6年度・今年度の来館者数の月変化と年度比較



(2)利用目的と来館者内訳

令和6年度と令和7年度の来館者について、一般利用、クラフト体験(クラフト体験をした来館者)、教育施設利用(環境学習体験を受けた来館者)に分けました(表3)。

数値としては、一般利用が多い結果となっています。しかし、説明と合わせて海浜植物に触れる教育施設利用や、海浜植物を使ったクラフト体験の参加、スタンプラリーなどの体験を実施しているはまなすフェスティバルなど、実際の海浜植物やプログラムを通して石狩浜の自然に触れる来館者が全体の4割弱となっています。数値としては見えませんが、今年度は展示で設置した植物標本に触れる方が多く見られました。保護センターでの滞在時間や、満足度の向上から、海浜植物をはじめとした生物多様性の認知に繋げていくことも考えながら展示やプログラムの更新を進めていきます。

表 3. 今年度の来館者数の内訳

		R6			R7		
内訳	来館者	3251			3481		
	一般利用	2044	63%		2178	63%	
	はまなすフェスティバル	494	15%	37%	600	17%	37%
	クラフト体験	270	8%		371	11%	
	教育施設利用	443	14%		332	9%	

※R7年の教育施設利用は、閉館期間中にも利用があったため内訳については開館期間中の対応のみ計算

第6章. 調査報告一覧

石狩浜海浜植物保護センターが発行した調査報告は以下の通りです。

表 1. 「石狩浜海浜植物保護センター調査研究報告」

	タイトル	号数	刊行年
1	石狩浜における植生モニタリング区の設置と 14 年間の植生変化(2002 年度石狩浜海浜植物保護センター調査研究報告)	第 1 号	2006
2	石狩川河口湿地部における植生モニタリング区設置と植生概況(2003 年度石狩浜海浜植物保護センター調査研究報告)	第 2 号	2006
3	石狩海岸林の植生概要(2004 年度石狩浜海浜植物保護センター調査研究報告)	第 3 号	2006
4	石狩浜定期観察による植物開花状況の記録(2004/2005)	第 4 号	2006
5	石狩浜定期観察による植物開花状況および野鳥の記録(2006)	第 5 号	2009
6	聚富海岸の植生概況	第 6 号	2009
7	石狩浜定期観察による植物開花状況および野鳥の記録(2007)	第 7 号	2009
8	1989 年以降に記録された石狩浜の植物種リスト	第 8 号	2009
9	2008 年から 2010 年の石狩浜定期観察による植物開花状況等の記録	第 9 号	2012
10	石狩川河口部砂嘴における植生分布の変化	第 10 号	2012
11	石狩川河口右岸地区におけるイソスミレの探索結果	第 11 号	2022
12	石狩浜のハマボウフウの生育状況の地区別比較	第 12 号	2022
13	2022 年のイソスミレの分布地点別生育状況の比較	第 13 号	2024
14	石狩浜海浜植物保護センター海浜植物観察園の植生管理手法の検討	第 14 号	2025
15	イソスミレの保全に向けた生育状況調査と指標の検討にかかわる報告	第 15 号	2025

石狩市が発行した石狩浜に係る自然調査報告は以下のとおりです。

表 2. 植生に関する調査報告

	タイトル	刊行年	発行
1	石狩湾新港地域海浜植生調査報告書 ／別図(植生分布図)	1976	石狩町
2	石狩海浜地区植生調査委託業務	1989	石狩町・日本データ サービス
3	石狩川河口地域植物調査報告書	1989	石狩町
4	石狩川河口地域植物調査追加報告書	1990	石狩町
5	石狩町植生概況調査報告書	1996	石狩町・石狩町緑化 推進協議会

表 3.野鳥に関する調査報告

	タイトル	刊行年	発行
1	石狩市野鳥生息概況調査報告書(平成 8 年度)	1996	石狩市
2	石狩浜の野鳥リスト(1997~2009)	2009	石狩市

第7章. 海浜植物等保護地区

「石狩市海浜植物等保護条例(平成12年3月30日制定)」に基づき、海浜植物等保護地区を指定しています。

保護地区では、すべての植物採取を禁止している「生態系保護地区」と植生維持に影響のない範囲の採取は認めている「自然ふれあい地区」に区分していますが、いずれも看板や車両侵入防止柵を設置し、海浜環境の保全と利用状況の把握に努めています。また、4月から9月までは監視員を配置し、巡回による監視を行っています。

親船地区西端から石狩湾新港東埠頭東端にかけての延長約2.6km、約33.7haの海岸保全区域については、海岸管理者が植生保護を目的に車乗り入れ防止柵を設置していますが、侵入が後を絶たない状況でした。そのため、海岸管理者等で構成される「石狩浜環境保全連絡会議」では、このエリアについて、柵の補強等の対策に加え、段階的に市条例に基づく保護地区の拡大を図ることが合意されており、平成30年5月には、条例を一部改正し、「親船地区」を西側へ1.2km、面積約15haを拡大し、保護地区は54.3haとなりました。

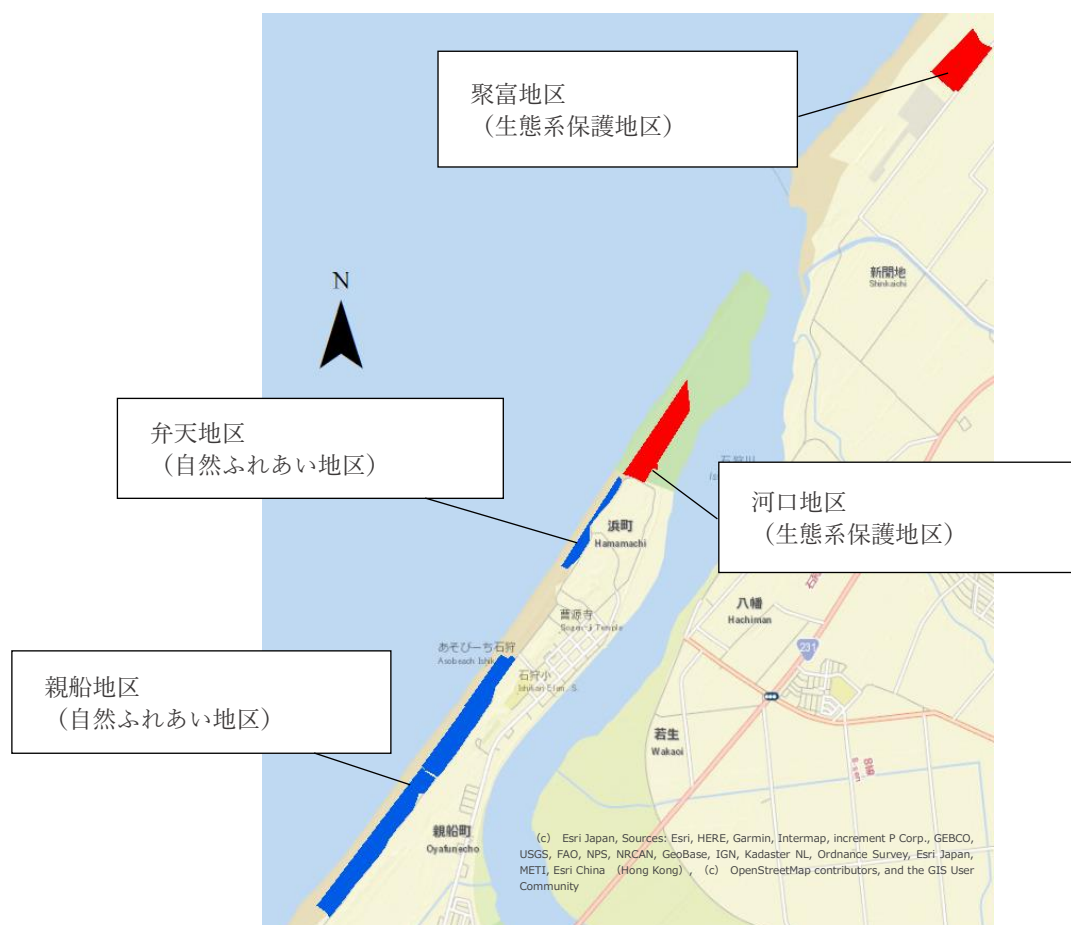


図1. 海浜植物等保護地区設置区域(平成30年度末現在)

資料

1. 石狩浜アクションプラン(行動計画)

2040年までの行動目標	2030年までの具体的目標	関連事業		
		石狩浜海浜植物保護センター事業	自然保護課事業	その他事業
<目指す姿> データに基づく保全対策の実施				
1) 植生遷移をモニタリングし、生態系の変化を把握する。	①砂丘植生の状態、遷移状況をモニタリングする。 良好な状態で維持されている海浜植物群落に優先的に調査区を設けて、各区3年に1回のペースで植生調査を実施する。2030年までに1回、空撮により、テンキグサ帯、ハマナス帯、ススキ、カシワ等の植生分布の把握を行う。	○		
	② 浜崖位置の変化、エゾシカの情報を定期的に集約し、植生への影響を把握する。	○	○	○
	③ 連続する地域の動植物の生息・生育状況に関する情報や、石狩浜の生態系保全に関わる情報を取得する。	○	○	○
2) 植生管理により、海浜植物群落を維持、再生する。	① 海浜植物群落再生に係る実証試験の結果を受け、再生手法と実施体制について検討を行い、必要に応じた海浜植物群落再生事業を実施する。	○		○
	② 海浜植物保護センター敷地等で、効果的な海浜植物群落の再生・管理手法について検証しデータを蓄積する。	○		
3) 外来種が、海浜生態系に及ぼす影響を最小限にとどめる	① 外来種の生息・生育状況を把握する。動物相については、適宜カメラを設置して影響を把握する。収集データは、位置情報を含む外来種データベースを作成し管理する。	○	○	○
	② アズマヒキガエルの生息状況について、産卵場所などの情報収集を進め、海岸林内融雪プールのキタホウネエビへの影響等、希少種への影響を最小限にとどめる。必要に応じて防除対策を実施し、実施後のモニタリングを行う。		○	○
	③ 外来低木類の生育状況を把握し、海浜植物群落内に分布を広げた種については、適切な手法で防除する。防除対策実施後はモニタリングを行う。	○		
	④ その他、新たな侵入種や、生息・生育状況が著しく拡大するなど海浜生態系への影響が懸念される種が生じた際には、適宜防除対策を実施する。	○	○	○
4) 石狩浜の海浜生態系における希少種等の現状の生息、生育状況を維持する。 ※絶滅危惧指定種だけでなく、縮小が懸念される群落等も含む。	① 希少種等の生息・生育状況を把握し、位置情報を含む希少種データベースを作成、管理する。石狩浜の海浜生態系の代表的な希少種等(以下)については、3年に1回は生息・生育状況の把握を行う。 植物：ハマボウフウ、イソスミレ、エゾスカシユリ、エゾチドリなど 動物：イソコモリグモ、スナヨコバイなど海浜植物群落に代表的な昆虫、アカモズ※、キタホウネエビ※など ※アカモズ、キタホウネエビは、各専門家と随時情報共有する。 対象種については、有識者会議で適宜検討する。	○	○	○
	② イソスミレは、分布域の現状維持を目標とし、まず、分布域のマッピングと生育状況調査を行う。調査結果を踏まえ、必要に応じて有識者会議でアクションプランを作成し、保全対策を実施する。 そのほかの種についても、必要に応じてアクションプランを作成し、対策を実施する。 現地での保全が困難な場合は、海浜植物保護センターおよび関係主体と連携して生息・生育域外保全を検討する。	○	○	○
5) 海浜生態系に関するデータを整理し、公開、発信する。	① 砂丘植生および動植物の生息・生育状況に関してデータベースを作成する。データベースは、可能な限り位置情報を取得しGISで管理する。	○	○	○
	② 石狩浜の自然環境保全に関連する各種報告書を集積しデータベース化する			○
	③ データベースを公開するとともに、データの整理、公開、発信に至る作業を体系化し、展示や情報誌等で調査研究や自然情報、保全事業に関する情報を発信する。			○

2040年までの行動目標	2030年までの具体的目標	関連事業		
		石狩浜海浜植物保護センター事業	自然保護課事業	その他事業
<目指す姿> 自然資源の適正管理と適正利用				
6) ハマボウフウの生育状況把握を進め、状況に応じた管理を行う。	① ハマボウフウの各ゾーンにおける生育状況を調査し、現状の分布域における天然更新可能な状態維持を目標として、各ゾーンのモニタリングおよび採取圧試験等の結果を踏まえ、必要に応じて採取を適宜抑制、周知、管理する。	○		
	② ふれあい地区において、ハマボウフウの生態と持続可能な採取方法を、体験プログラムや海浜植物保護センターの展示や情報誌等で普及する。	○		
7) 景観保全のための植生管理により、観光利用と生態系保全を両立させる。	① はまなすの丘公園と無事の民周辺で植生管理や生態系に関する情報を管理者等と共有し、景観保全を進める。設定した植生管理エリア内では、ススキ、アキグミの植被率を現状以下に維持する。ニセアカシア、ポプラ、イタチハギ等外来低木は、海浜植物群落または湿原植物群落内への侵入がある場合は、適切な手法で防除する。	○		○
	② 聚富原生花園で景観保全のための植生管理と、持続可能な観光利用の在り方を検討する。	○		○
8) 海浜地の適正利用と、海浜生態系の保全を両立させる。	① 条例に基づく保護地区への車両乗り入れ防止対策を引き続き実施し、保護地区へ乗り入れる車両の台数をゼロにする。	○		
	② 車両走行による生態系への影響を定期的に把握し、生態系に関する情報を管理者と共有し連携した管理を進め、将来的な管理のあり方を考えていく。	○		○
	③ レジャー・観光利用者へ向け、海浜生態系や野生動物との関係性について現地へ看板を設置したり、webサイト等で普及啓発を進める。海岸のごみの実態や生態系への影響について普及啓発を進める。	○	○	○
	④ 海岸砂丘の大規模な改変が生じないよう、海岸管理者や事業者へ海浜生態系に関する情報共有や配慮の喚起を必要に応じて行う。	○	○	○
<目指す姿> 石狩浜の自然に対するシビックプライド浸透のための基盤づくり				
9) 学び・自然体験活動・参加型保全活動の実施体制を強化する。	① 海浜植物保護センターにおいて石狩浜の海浜生態系や生物多様性に関わる情報を発信し、来訪や情報閲覧による、気づき、発見を促し、学びや参加の意欲を浸透させる。	○	○	○
	② 教育機関へ向けたワークシート、ホームページ等学びのツールを整えるとともに、随時見直しを行う。海浜植物保護センターにおける市内小中学校の受け入れ維持を目標とし、学校および社会教育機関へ利用を促す広報を行う。	○		○
	③ 学習会、観察会、参加型の保全活動など、市民との情報共有や市民参加の場を毎年設ける。Webを用いた市民からの情報提供の仕組みを整える。必要に応じて景観保全作業や調査等を参加型で実施する。	○	○	○
	④ 市民団体等による自然体験活動、環境保全活動、自然をいかした地域づくり活動等を、情報の受発信や、利用しやすい施設環境づくりなどにより支援する。	○	○	○
10) 自然資源の保全と持続可能な利用との両立を図る。	① ハマナスを利用した商品等が石狩浜の保全に寄与するしくみをつくるなど、自然資源の利活用と生物多様性の保全が循環するしくみの普及を進める。	○		○

2. 第13回はまなすフェスティバルアンケート

1. おすまい(102)

1. 石狩市内(35)	2. 札幌市(62)	3. 北海道内(5)	4. 北海道外(0)
-------------	------------	------------	------------

2. 年代(133)

1. 10歳未満(28)	2. 10～20歳未満(11)	3. 20～30歳代(29)
4. 40～50歳代(34)	5. 60～70歳代(29)	6. 80歳以上(2)

3. 同伴者※2)に含む

4. 本イベントへ来たきっかけ(126)

1. ちらし(43)	2. SNS/ホームページ(28)
3. 口コミ・知人からの紹介(10)	4. いしかり本町スタンプラリー(13)
5. 海浜植物保護センターへ見学に来た(6)	6. 海へ来たついで(5)
7. その他(11:広報いしかり/回覧版/灯台/ライジングサン/じゃらん/募金活動/広報いしかり/はまなすを見に/募金活動/募金活動)	

5. はまなすフェスティバルへの来訪回数(105)

1. 今回がはじめて(69)	2. 2回目以上(36)
----------------	--------------

6. いしかり本町灯台とハマナスDayイベントの他の会場へ行きましたか?あるいは行く予定ですか?(306)

1. はい(85)	1-1. カイトフェス(53)	1-2. 灯台一般公開(51)
1-3. 旧石狩小公開(52)	1-4. RVパーク(44)	1-5. 観光センター(44)
1-6. 弁天歴史公園(44)	2. いいえ(18)	

7. はまなすフェスティバルを通じてハマナスに親しみをもつことができましたか?(101)

1. はい(99)	2. いいえ(0)	3. どちらともいえない(2)
-----------	-----------	-----------------

8. はまなすフェスティバルを通じて石狩浜に親しみをもつことができましたか?(101)

1. はい(99)	2. いいえ(0)	3. どちらともいえない(2)
-----------	-----------	-----------------

9. 感想・ご意見

自然やハマナスにお手軽に親しめる大変よいイベントです。地方ならではの良さ、札幌にはあまりこういうのはなかったですね。税金ばかり取られてリターンが少ない(怒)/ありがとうございます/自然と触れ合えていいイベントでした。またきます。/スタンプラリーとカイトが子供が楽しんで良かったです。/楽しかったです。/子供を連れて楽しく参加できました。/スタンプかわいかったです。/スタンプラリー勉強になりました/これからも続けてください/自然を大切にですね/たのしかったです！らいねんもきます！/キッチンカーなど有ったほうが良いと思います。/キッチンカーを置いて下さい/楽しかったです/毎年たのしみにしています/たのしい！/楽しみます/楽しかったです/夏を感じました。/スタンプラリーとクイズが楽しめた/とても良いイベントかと思います/はまなすウォーターの簡単な作り方を教えていただけるといいなと思います(専用の器具を使わずに)/意外と見どころがあって楽しかった/石狩の花はまなすに触られてよかった/来年もまた来たいと思います。/毎年たのしみにしています/はまなすつみとりが楽しかったです/とても楽しいイベント！毎年楽しみにしています/天気にも恵まれレンタサイクルで各所を回り楽しかったです/天気が高く気持ちよかったです。来年も来たいです。/お花かわいかったです。/はまなすがとてもキレイでした。/はまなすの香りにいやされました/はまなすの多くのことが学べてとてもよかったです。とてもいやされました。ありがとうございます。/楽しかったです。また来ようと思いました。/楽しいイベントです。来年も楽しみにしています。/子供も楽しく過ごせました。はまなすの香りもステキでした。またきたいと思います。/香りがやさしく良い香りだった。コーディアルを作って飲んでみます。

3. 石狩さけまつり 2025 アンケート

1. おすまい(33)

1. 石狩市内(3)	2. 札幌市(20)	3. 北海道内(8)	4. 北海道外(2)
------------	------------	------------	------------

2. 年代(34)

1. 20 歳未満(2)	2. 20代(3)	3. 30代(0)	4. 40 代(17)
5. 50 代(8)	6. 60 代(1)	5. 60 歳以上(3)	

3. 当センターのご利用に関して(33)

1. 初めて (22)	2. 数年に一回程度(2)	3. 年に1回程度(4)
4. 年に数回(4)	5. その他(1)	

4. 来館のきっかけ(33)※最もあてはまるもの1つ

1. 通りかかってなんとなく(18)	2. 入り口付近の掲示板を見て(8)
3. SNS などオンライン情報を見て(0)	4. 広報、回覧、公共施設の掲示物を見て(2)
5. 知人からの紹介(2)	6. その他(3)()

5. 興味関心のあるワードはどれですか。(96) ※3つまで

1. サケ祭り(25)	2. 石狩浜(8)	3. 石狩灯台(3)
4. 海(12)	5. 海辺の風景・景色(0)	6. 散歩・散策(5)
7. 海浜植物(6)	8. 野の花(5)	9. 野鳥(3)
10. 生きもの(4)	11. 自然(1)	12. 自然観察(3)
13. 自然素材(1)	14. クラフト(6)	15. ハンドメイド・ものづくり(9)
16. ガーデニング(4)	17. まちづくり(0)	18. 環境保全(0)
19. 生物多様性(0)	20. 持続可能(1)	21. 上記には特にない()

6. ブーケづくりやクラフト体験に料金設定がされていたら、1つの体験につきどの程度の金額まで参加しますか。(33)

1. 100 円(5)	2. 300 円(13)	3. 500 円(12)	4. 1000 円(3)
5. 1000円以上(具体的な金額)(0)			

7.展示を見ておこたえください。回答の理由もあればお書きください。

A・石狩浜に海浜植物等保護地区が設定されていることについて知ることができましたか。(32)

1. できた (10)	2. だいたいできた(16)	3. どちらともいえない(4)
4. あまりできなかった(1)	5. 全くできなかった(1)	

B. 石狩浜は砂がつもってできた海岸砂丘です。海岸砂丘の役割について知ることができましたか。(33)

1. できた (11)	2. だいたいできた(11)	3. どちらともいえない(7)
4. あまりできなかった(4)	5. 全くできなかった(0)	

C. 石狩浜には、海浜植物をはじめ多種多様な野生動植物がくらしていることについて知ることができましたか。(33)

1. できた (14)	2. だいたいできた(15)	3. どちらともいえない(4)
4. あまりできなかった(0)	5. 全くできなかった(0)	

D. ハマナスをシンボルに石狩浜の自然環境の保全再生と利活用を両輪で進め、自然と共生する地域づくりを目指す石狩浜ハマナス再生プロジェクトの取り組みについて、知ることができましたか。(33)

1. できた (15)	2. だいたいできた(14)	3. どちらともいえない(4)
4. あまりできなかった(0)	5. 全くできなかった(0)	

8.来館の感想をご自由にお書きください。

ハマナス再生の取り組みを知れてよかった。リース作りも楽しかった。/とても楽しかった/クラフト体験楽しかったです/体験が手軽にできて思い出になりました/石狩湾の砂の堆積の経過がおもしろかった/無料で体験ができてありがたいと思います。ありがとうございました。/大変素晴らしかったです。/スタッフの皆さんが親切でとても嬉しかったです。子供たちも喜んでました。ありがとうございました。また来たいです。/無料でイベントに参加できて楽しかった。/たくさんの資料があつて楽しかった。/ワークショップができて楽しかったです。また HP をチェックして伺ってみます。/無料の体験があつておもしろかった。子供も簡単にできて良かった/クラフトが楽しくできました。/きれいな施設でした。/風車など立たないように願っています。石狩の自然を壊さないで。/職員の方が丁寧に接してくれて良かったです。ありがとうございました。

沿革

石狩海浜植物保護センター開設の目的

石狩海岸地域は、北海道自然環境保全指針において「すぐれた自然地域」に抽出されるとともに、大都市近郊において、海岸砂丘の生態系を色濃く残す自然海岸として、全国的にも大変貴重な地域となっています。しかし、美しい海浜植物や雄大な海浜景観は、レジャーをはじめとする過度な利用により、次第に失われつつあります。

このような状況において、豊かな海辺の自然を市民共有の財産として保全し、後世へ残して行くためには、市民、行政、研究機関とが協働して普及啓発活動や調査研究活動に取り組むことが不可欠です。石狩海浜植物保護センター(以下、「保護センター」)は、その活動拠点として、平成 12 年 4 月に開設されました。

施設概要と業務内容

名称 石狩海浜植物保護センター

所在地 石狩市弁天町 48 番地 1

tel.0133-60-6107/fax.0133-60-6146

規模 敷地面積:11,244.1 m²

センター／木造 2 階建、延床面積:259.5 m²、建物高:10.9m

温室／鉄骨造平屋建、延床面積:42.5 m²

保護センターは、①海浜植物の保護に係る調査・研究、②石狩浜保全への啓発を目的とした施設です。野外調査から得た情報をもとに①に繋げ、石狩浜の保全について展示室・観察園・再生園から発信しています。

【展示室】

基本的な石狩浜の自然情報の紹介、保護の歩み、海浜植物の生態、植生の変化などについて展示をしています。野外調査で得た情報についても反映することで、最新の石狩浜の自然について文章や写真を用いて発信しています。

【観察園】

展示室と連動した観察園作りを念頭に、野外調査をもとに石狩浜の海浜植生(成帯構造)を再現しています。来館者が快適に園内を利用できるように、種名の配置、安全管理を実施しています。海浜植生の維持管理については、より効果的な維持管理手法を検討すると共に、海浜生態系の保全手法の蓄積を図っています。

【再生園】

「ハマナスの咲く石狩浜の風景を未来に残し、ハマナスをシンボルに自然と共生する地域づくり」を目的とした「石狩浜ハマナス再生プロジェクト」の一環で整備しています。ハマナスが彩る砂丘植生を再生するための試験地だけではなく、市民参加型の維持管理を続けています。また、ハマナスから得る花びらや果実は、環境学習利用や、石狩浜の普及啓発のための商品の原材料等で活用しています。

以下、保護センターにおける主要業務を示します。

○啓発・普及業務

展示施設・自然観察園・ハマナス再生園の維持管理

施設見学者への対応/講座・観察会等の開催/市民に対する情報提供・機関紙の発行・ホームページの管理・運営/ボランティア・各種団体・研究機関との連絡調整

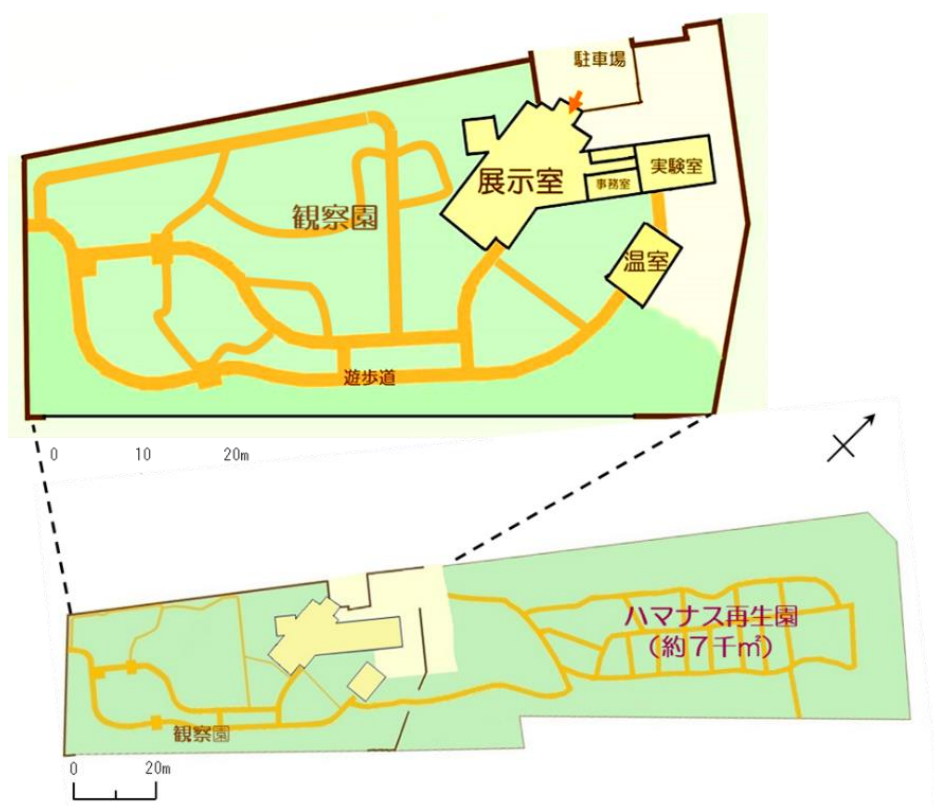
○調査・研究業務

石狩浜の動植物の生息、生育状況に関する調査

海浜生態系の保全に係る調査研究と実施

海浜生態系の保護・保全計画の立案と実施

海浜生態系の保全に調査研究活動支援



石狩浜海浜植物保護センター利用案内

開館期間 4月29日～11月3日

開館時間 10時～16時

休館日 火曜日(祝日の場合はその翌日)

入館料 無料

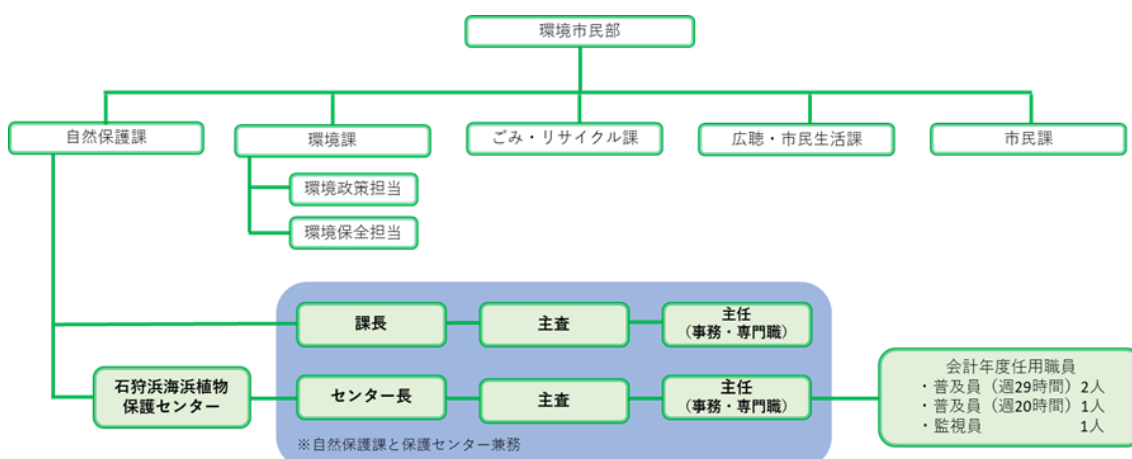
駐車場 あり

◆石狩浜海浜植物保護センター運営委員会名簿

(第12期:令和6年4月1日~令和8年3月31日)

会長	溝渕 清彦(公益財団法人 北海道環境財団)
副会長	長谷川 理(特定非営利活動法人 EnVision 環境保全事務所)
委員	西川 洋子(地方独立行政法人 北海道立総合研究機構)
委員	松島 肇(北海道大学大学院農学研究院)
委員	圓谷 昂史(北海道博物館道民サービスグループ兼自然研究グループ 学芸員)
委員	氏家 歴 (石狩市立石狩中学校 総合担当主任)
委員	石山 優子(うみいく)
委員	鈴木 玲 (石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク)
委員	小林 卓也(公募)

◆職員構成



令和7年度石狩浜海浜植物保護センター活動報告書
令和8年4月発行

発行 石狩市

編集 環境市民部石狩浜海浜植物保護センター

開館期間中 〒061-3372 石狩市弁天町 48-1

tel.0133-60-6107 fax.0133-60-6146

冬季閉館中 〒061-3292 石狩市花川北 6 条 1 丁目 30-2

tel.0133-72-3269 fax.0133-75-2275

E-mail ihama@city.ishikari.hokkaido.jp

HP <https://www.city.ishikari.hokkaido.jp/kurashi/kankyo/1001996/index.html>